

2026年8月6日

米国株式アグレッシブ・ポートフォリオ(愛称:GeoMax)

2026年7月の基準価額の下落について

投資家の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

米国株式アグレッシブ・ポートフォリオ(愛称:GeoMax、以下「当ファンド」)の基準価額は、2026年7月に大きく下落し、設定来で最大の月間下落率となりました。この下落の要因、および当ファンド設定時に想定していた値動きとの比較等について、ご説明いたします。

1. 2026年7月のパフォーマンス（2026年7月末時点）

	2026年7月	2026年 年初来	当ファンド設定来 (2023年9月6日～)
当ファンド(GeoMax)	▲21.4%	+25.4%	+112.7%
S&P500指数(配当込み、円換算)	▲1.0%	+11.3%	+86.8%

※S&P500指数(円換算)は、当ファンドと比較可能な計測期間において、公表仲値を使用して当社にて算出。
※S&P500指数は、当ファンドのベンチマークではありません。

当月は、当ファンドの設定来で最大の月間下落率を記録しました。

一方で、2026年の年初来の騰落率は+25.4%、設定来の騰落率は+112.7%となっており、基準価額(21,265円)は 設定時(10,000円)の2倍を超える水準にあります。

また、S&P500指数(円換算、計測期間調整後)との比較でも良好なリターンとなっています。



※S&P500(配当込・円換算)は、当ファンド設定日=2023年9月6日を10,000として数値化し、公表仲値を使用して当社にて算出。なお、S&P500(配当込、円換算)は、当ファンドのベンチマークではありません。
※上記は、過去の実績であり、将来の運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

後述の「本資料のご利用にあたってのご留意事項等」をご覧ください。

2. 下落の要因：半導体セクターを中心とした株価調整

2026年7月の主な米国の株価指数の騰落率(円換算)は以下のとおりです。

S&P500(配当込み)	▲1.0%
ナスダック総合指数	▲3.7%
フィラデルフィア半導体株指数(SOX指数)	▲18.4%
参考:当ファンド(GeoMax)	▲21.4%

※各株価指数(円換算)は、当ファンドの7月騰落率と比較可能な計測期間(2026年6月30日から7月30日まで)における米国での騰落率を、公表仲値を使用して当社にて算出。

※上記の株価指数は、いずれも当ファンドのベンチマークではありません。

※上記は、過去の実績であり、将来の運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

米国株式市場全体がほぼ横ばいで推移するなか、人工知能(AI)・半導体関連銘柄は大きく下落しました。AI向け投資の持続性に対する警戒感、半導体メモリの需給を巡る見方の変化、中国企業との競争激化への懸念などが重なり、7月を通じてAI・半導体関連銘柄に断続的な売りが広がりました。

当ファンドは米国のAI・半導体関連銘柄を高い比率で組み入れているため、こうした市場動向の影響を大きく受ける結果となりました。

為替市場(円/米ドル)では、7月末にかけてやや円高ドル安となりました(公表仲値ベース、▲1.0%)が、当ファンドの7月の値動きに与える影響は限定的でした。

組入銘柄の値動き

7月中の組入銘柄(20銘柄)の中で、月を通じて保有した銘柄のうち17銘柄が下落しました。当ファンドのリターンに対する影響度が特に高かった銘柄は以下のとおりです(※)。

銘柄	事業内容	7月 騰落率
コーニング	光ファイバーを含む材料科学メーカー	▲47.1%
コヒレント	光通信部品・レーザー機器	▲36.3%
KLA	半導体検査・計測装置	▲35.2%
マーベル・テクノロジー	データインフラ向け半導体	▲34.0%
インテル	半導体大手	▲30.8%
フレックス	電子機器の設計・製造受託	▲29.9%

※各銘柄の7月騰落率は、当ファンドと比較可能な計測期間において、米ドルベースで当社にて算出。

※個別銘柄の購入、売却または継続保有を推奨するものではありません。

※上記は、過去の実績であり、将来の運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

3. 設定時に想定していた値動きとの比較

当ファンドは、長期的なリターンの最大化を優先して運用しており、一般的な株式指数や株式投資信託と比べて、大きな値動きとなることを前提に設計されています。

当ファンドの設定に際して行ったバックテスト(シミュレーション)に基づくリターン等の値、および設定来の当ファンドの実績値は以下のとおりです。(ドロアダウン:直近の最高値からの下落率)

	2002年12月末～2023年8月末		2023年9月6日～
	S&P500指数 (配当込み、円換算)	GeoMax (バックテスト)	GeoMax (設定来、実績)
年率リターン	11.5%	15.9%	29.7%
年率リスク	23.9%	44.9%	38.4%
最大ドロアダウン	▲63.3%	▲85.5%	▲39.1%

※バックテスト期間:2002年12月末～2023年8月末、費用控除後、S&P500指数(円換算)は公表仲値を使用して当社にて算出、設定来の当ファンドの実績:2023年9月6日～2026年7月31日。

※S&P500指数は、当ファンドのベンチマークではありません。

※上記は、過去の実績・シミュレーション結果であり、将来の運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

期間が異なるため単純な比較はできませんが、設定以降の当ファンドは、リターンの実績値(年率29.7%)が、約3年前に行ったバックテストのリターン(年率15.9%)を上回っている他、リスク値や最大ドロアダウンを含め、設定当初に想定されたレベルの範囲内で順調に推移しています。

上記の結果を踏まえ、当ファンドの値動きは、2026年7月の下落を含めて、長期的なリターンの最大化という運用上の目標を目指す上で、ほぼ想定通りに順調に推移しているものと、当社では考えています。

4. 当ファンド設定来の大きな下落局面とその後

当ファンドが設定来で経験した主な下落局面(直近のピークから15%以上の下落発生)について、各下落局面における最大下落率と、下落開始後に基準価額が元の水準に回復した時期は以下のとおりです。

当ファンド最大の下落局面(2024年7月～、最大下落率▲39.1%)のケースでは、約1年間で元の基準価額の水準を回復しています。

下落開始の時期	底(各下落局面の最安値に到達した時期)	直近ピークからの最大下落率	元の基準価額水準への回復時期
2023年9月	2023年10月	▲17.4%	2023年12月
2024年7月	2025年4月	▲39.1%	2025年7月
2025年10月	2025年11月	▲15.4%	2026年1月
2026年6月(直近)	2026年7月30日※	(▲29.8%)※	—

※2026年6月をピークとする今回の下落局面は、まだ最高値を回復していないため、底の時期、下落率については2026年7月末時点での値を表示。

※上記は、過去の実績であり、将来の運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

後述の「本資料のご利用にあたってのご留意事項等」をご覧ください。

5. まとめ

- 2026年7月の月次リターンは、当ファンド設定来で最大の下落幅を記録しました。
- 当月の主な下落の要因は、当ファンドで現状最も保有比率の高いAI・半導体関連銘柄の値下がりです。今後もこれらの銘柄群の値動きが当ファンドのリターンに大きく影響すると予想されます。
- 但し、当月の下落幅は過去最大の下落局面での下落幅の範囲内に留まっており、2026年の年初来や当ファンドの設定来では、当ファンドは代表的な株価指数を上回るプラスのリターンを記録しています。
- 設定以来の当ファンドの値動きは、当月の下落を含めて、設定当初に想定されたレベルの範囲内で順調に推移しています。今後も引き続き、長期的なリターンの最大化という運用上の目標に見合ったパフォーマンスが期待できるものと、当社では考えています。

GeoMax の日次リターンの要因など 最新の情報をご提供中！

sustenキャピタル・マネジメントでは、GeoMaxに関する情報提供の取組みとして、下記サイトにて各保有銘柄による寄与度の詳細や最新情報をご提供しております。こちらも併せてご活用いただけますと幸いです。

GeoMax AI | AIによる解説サイト
https://b.susten.jp/geomax_ai



ファンドの特色

1. 目指すは長期的なリターンの最大化

投資効率（リスクあたりのリターンの大きさ）よりも長期的なリターンの最大化を優先して運用を行います。
「リターンの幾何平均（Geometric mean）最大化（Maximize）」がファンド名の由来です。

2. 米国株式に投資（為替ヘッジなし）

主として米国に上場する株式に投資をし、為替ヘッジは行いません。
米国の株式市場の動向に加えて、円安はプラスに（円高はマイナスに）影響します。

3. 個別銘柄のような運用成果をNISAで実現

複数の銘柄に分散投資する投資信託でありながら、成長性のある株式への個別銘柄投資に似た値動きで、ハイリスク・ハイリターンを目指すファンドです。
なお、デリバティブの使用はヘッジ目的等に限定されるため、当ファンドは、NISA（少額投資非課税制度）における「成長投資枠（特定非課税管理勘定）」の対象商品となります。

4. 投資戦略の進化

長期的なリターンの最大化を目的として、投資戦略（計量モデルを含む）の継続的な改良を行います。
投資戦略の変遷や現行版の詳細については、委託会社の当ファンド専用サイト（<https://geomax.funds.susten.jp>）にてご覧いただけます。

※ 資金動向や市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

※ NISAについては、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。なお、税法が改正された場合等には、変更される場合があります。

ファンドの仕組み

当ファンドは、ファミリーファンド方式により運用を行います。



※ 損益はすべて投資家である受益者に帰属します。

※ ファミリーファンド方式とは、投資家からの資金をまとめてベビーファンドとし、その資金を実質的に同一の運用方針を有するマザーファンドに投資して、実質的な運用を行う仕組みです。

投資リスク

◆ 基準価額の変動要因

当ファンドは、主に価格変動のある有価証券等（外貨建資産の場合は為替変動も含まれます。）に投資しますので、以下に掲げる要因等により基準価額が変動します。したがって、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。なお、投資信託は預貯金とは異なります。

以下は当ファンドの主なリスクおよび留意点であり、これらに限定されるものではありませんのでご注意ください。

株価変動リスク	当ファンドは、実質的に米国の株式に投資するため、株式投資に係る価格変動リスクを伴います。一般に、株式の価格は、個々の企業の活動や業績、経営方針、ならびに法令順守の状況等に反応して変動するほか、投資対象国の経済情勢や景気見通し、金利変動、為替相場およびそれらの見通し等にも反応して変動します。したがって、実質的に投資する株式の価格が下落した場合、基準価額が下落する要因となります。
為替変動リスク	当ファンドは、外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行わないため、為替変動リスクを伴います。為替相場は、各国の経済状況、金利動向、政治情勢等により変動します。したがって、外貨建資産の通貨に対して円高となった場合には、資産の円換算価格が下落し、基準価額が下落する要因となります。
信用リスク	当ファンドは、実質的に米国の株式に投資するため、信用リスクを伴います。株価は、株式の発行者の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等により変動し、発行企業が経営不安、倒産等に陥った場合には、投資資金が回収できなくなることがあります。したがって、このような状態が生じた場合には、保有する有価証券の価格が下落し、基準価額が下落する要因となります。
流動性リスク	当ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要性が生じた場合や、市場規模、取引量、取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない場合には、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないことや、値動きが大きくなる場合があります。これにより、基準価額にマイナスに影響をおよぼす可能性や、換金の申込みの受付が中止となる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性があります。
カントリーリスク	当ファンドは、実質的に米国の株式を投資対象とします。実質的な投資対象国の政治や経済情勢等の変化により金融市場・証券市場が混乱して、投資した資金の回収が困難になることや投資した有価証券の価格が大きく変動する可能性があり、基準価額が下落する要因となります。

◆ その他の留意点

- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- 当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行います。主要投資対象とするマザーファンドにおいて、他のベビーファンドにより多額の追加設定・一部解約がなされた場合には、マザーファンドにおける売買ならびに組入比率の変化等により、当ファンドの基準価額に影響をおよぼす場合があります。

投資リスク

◆ 収益分配金に関する留意点

- ・ 収益分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- ・ 収益分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、収益分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- ・ 投資者のファンドの購入価額（取得元本）によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。また、購入後の運用状況により、収益分配金額より基準価額の値上がりがかつた場合も同様です。

お申込みメモ

購 入 単 位	販売会社が定める単位
購 入 価 額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
購 入 代 金	販売会社が定める日までにお支払いください。
換 金 単 位	販売会社が定める単位
換 金 価 額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額
換 金 代 金	原則として換金申込受付日から起算して4営業日目からお支払いします。
申 込 締 切 時 間	原則として、営業日の午後3時30分までに販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の申込みとします。なお、販売会社により対応が異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
購 入 ・ 換 金 申 込 受 付 不 可 日	ニューヨーク証券取引所およびナスダック証券取引所の休業日またはニューヨークの銀行休業日に該当する日は、購入・換金の申込みができません。
購 入 ・ 換 金 申 込 受 付 の 中 止 お よ び 取 消 し	金融商品取引所における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情（投資対象国における非常事態（金融危機、デフォルト、重大な政策変更や規制の導入、クーデター、重大な政治体制の変更、戦争、天災地変等）による市場の閉鎖または流動性の極端な減少ならびに決済機能の障害や停止等）が発生したときは、委託会社の判断により、購入・換金の申込みの受付を中止すること、および既に受付けた購入・換金の申込みを取り消すことができます。
信 託 期 間	原則として無期限（2023年9月6日設定）
繰 上 償 還	以下の場合等には、繰上償還することがあります。 ○ 受益権の総口数が10億口を下回ることとなった場合 ○ 繰上償還することが受益者のために有利であると認める場合 ○ やむを得ない事情が発生した場合
決 算 日	原則、毎年7月25日（休業日の場合は翌営業日）
収 益 分 配	年1回の決算時に収益分配方針に基づき収益の分配を行います。 ※販売会社との契約によっては再投資が可能です。
課 税 関 係	○ 課税上は株式投資信託として取扱われます。 ○ 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA（少額投資非課税制度）の適用対象となります。 当ファンドは、NISAの「成長投資枠（特定非課税管理勘定）」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ○ 配当控除および益金不算入制度の適用はありません。

ファンドの費用

◆ 投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入価額に3.3%（税抜3.0%）を上限として、販売会社毎に定める手数料率を乗じた額です。詳しくは販売会社にお問い合わせください。 購入時手数料は、商品および関連する投資環境の説明・情報提供等、ならびに購入に関する事務コストの対価として販売会社が得る手数料です。
信託財産留保額	ありません。

◆ 投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 （信託報酬）	信託報酬の総額は、ファンドの日々の純資産総額に年率0.88%（税抜0.8%）の信託報酬率を乗じて得た額とします。信託報酬は日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期間の最初の6ヶ月終了日（休業日の場合は翌営業日とします。）および毎計算期末または信託終了のときに信託財産中から支払われます。 < 信託報酬率の内訳 > <table border="1"> <thead> <tr> <th>支払先</th><th>信託報酬率</th><th>役務の内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>委託会社</td><td>年率0.418% （税抜0.38%）</td><td>ファンドの運用、基準価額の計算、目論見書作成等</td></tr> <tr> <td>販売会社</td><td>年率0.418% （税抜0.38%）</td><td>交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等</td></tr> <tr> <td>受託会社</td><td>年率0.044% （税抜0.04%）</td><td>信託財産の保管および管理、委託会社からの指図の実行等</td></tr> </tbody> </table>		支払先	信託報酬率	役務の内容	委託会社	年率0.418% （税抜0.38%）	ファンドの運用、基準価額の計算、目論見書作成等	販売会社	年率0.418% （税抜0.38%）	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等	受託会社	年率0.044% （税抜0.04%）	信託財産の保管および管理、委託会社からの指図の実行等
支払先	信託報酬率	役務の内容												
委託会社	年率0.418% （税抜0.38%）	ファンドの運用、基準価額の計算、目論見書作成等												
販売会社	年率0.418% （税抜0.38%）	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等												
受託会社	年率0.044% （税抜0.04%）	信託財産の保管および管理、委託会社からの指図の実行等												
その他の費用・手数料	目論見書・運用報告書等作成費用、監査費用、信託事務に要する諸費用等が純資産総額の年率0.11%（税抜0.10%）を上限として信託財産中から支払われます。 また、組入有価証券売買時の売買委託手数料、外貨建資産の保管費用、信託財産に関する租税および借入金の利息等がありますが、運用状況等により変動するため、事前に料率や上限額等を表示することができません。													

※ 上記の費用合計額、その上限額および計算方法は、運用状況や投資者の保有期間等により異なるため、事前に表示することができません。

※ くわしくは、投資信託説明書（交付目論見書）の「ファンドの費用・税金」をご覧ください。

本資料のご利用にあたってのご留意事項等

- 本資料は株式会社sustenキャピタル・マネジメントが作成した資料です。取得のお申込みにあたっては、販売会社からお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認の上、ご自身でご判断ください。
- 本資料記載の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料記載の内容は将来の運用成果等を保証もしくは示唆するものではありません。また、税金等を考慮しておりませんので、実質的な運用成果を示すものではありません。
- 本資料記載の内容は可能な限り正確性を期しておりますが、その正確性を保証するものではありません。
- 本資料に記載されている個別の銘柄・企業については、当該個別銘柄の売却、購入または継続保有の推奨を目的とするものではありません。本資料において言及された証券について、将来の投資判断が必ずしも利益をもたらすとは限らず、また言及された証券のパフォーマンスと同様の投資成果を示唆あるいは保証するものでもありません。
- 投資信託は価格変動のある有価証券等（外貨建資産の場合は為替変動も含まれます。）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本は保証されているものではありません。投資信託の運用による損益はすべてお客さまに帰属します。
- 投資信託は金融機関の預貯金と異なり、元本及び利息の保証はありません。運用状況により、分配金が支払われないこともあります。
- 投資信託は預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。

委託会社、受託会社

- ◆ 委託会社 株式会社sustenキャピタル・マネジメント
 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第3201号
 加入協会：一般社団法人資産運用業協会
 電話番号：03-6810-7856
 営業時間：午前9時～午後5時（土日祝日、年末年始を除く）
<https://susten.jp/>
- ◆ 受託会社 三菱UFJ信託銀行株式会社（再信託受託会社：日本マスタートラスト信託銀行株式会社）

販売会社一覧

（投資信託説明書（交付目論見書）のご請求は各販売会社までお申し出ください。）

商号等	登録番号	加入協会
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第165号	日本証券業協会 一般社団法人 第二種金融商品取引業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会 一般社団法人 日本暗号資産等取引業協会 一般社団法人 日本STO協会 一般社団法人 資産運用業協会
株式会社SBI新生銀行 （委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社）	登録金融機関 関東財務局長（登金）第10号	日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社イオン銀行 （委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社）	登録金融機関 関東財務局長（登金）第633号	日本証券業協会
松井証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第164号	日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社SBI証券	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第44号	日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会 一般社団法人 第二種金融商品取引業協会 一般社団法人 資産運用業協会 一般社団法人 日本STO協会 日本商品先物取引協会 一般社団法人 日本暗号資産等取引業協会
ニュース証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第148号	日本証券業協会 一般社団法人 資産運用業協会
株式会社sustenキャピタル・マネジメント	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第3201号	一般社団法人 資産運用業協会